

教育研究所だより

令和8年9月3日 NO.117

夏期研修講座ふいかえり

今、教育現場では、確かな学力の育成、いじめや不登校の対応、教員の多忙化など様々な教育課題が混在し、本市も同様の課題がみられます。また、次期学習指導要領実施に向けて、教育現場は変化していくことが予想されます。

これらの課題や変化に対応するために、先生方の専門性を高めることが大切になってきます。保育・教育の質の向上が、子どもたちが「これからの社会を生きる力」につながると考えているからです。

教育研究所では、今年度も就学前保育教育・特別支援教育・生徒指導・教育相談・授業づくり・学級づくり・ICT・一般教育など、様々な分野から、今求められているものや先生方のニーズに応じた講座を準備し、連日、多くの熱心な先生方に参加していただきました。

講座では、講師の方の話や参加者同士のグループワークなどで多くの学びを得ることができました。学んで得たものを今後の保育・教育に活かしていただくとともに、職場でも広めてほしいです。

参加者の感想(一部)を掲載して、講座を振り返ります。



【講座3・6】

◆ 就学前保育教育講座 ◆

講座Ⅰ		開催日	8月24日(月)	会場	栗東市役所第Ⅰ会議室
『子どもの学びを読み取り 保育を創り出す力』		感想	○今回の研修を受けて、子ども達の深い学びのために常にねらいをもって日々の保育をしていきたいと感じた。普段保育を振り返り、普段はその場その場の子どもに対応に追われ、細かな子どもの見取りができていなかったり、明確なねらいを持たずに過ごしたりすることもあると反省した。普段から少しでも子どもの姿を見取り、それに基づいたねらいを持って環境を整えたり、子どもとかかわったりしていきたいと感じた。		
びわこ学院大学 教授 中井 清津子 氏			○園内研でも、子どもの姿の見取りを大切にしています。中井先生が子どもの姿を見てワクワクするとおっしゃっていたことがよくわかり、園内研でもみんなで子どもの姿をワクワクしながら話しています。そうそうと思いながら聞いているなかで、改めて保育者が先回りして喋らない、関わりすぎないことの大切さ、環境の大切さを学びました。		
講師			○子どもたちの遊びを「おもしろい」「楽しそう」と思い、感動しながらみる、一緒に遊ぶことの大切さを改めて感じました。また、園内研修では「質より量」だということ、たくさん意見を出すことがまず大事と聞き、園内の研修のあり方も考えていきたいです。		

講座 2・10		開催日	7月31日(金)	会場	なごやかセンター
『遊びを通した学びをつなぐ』 ～より良い幼保小接続に向けて～		感想	○小学校教育への学びにつながり、土台作りのためにも、就学前に心を動かす場面や、試行錯誤ができる場面、自発的な活動を深めるような環境や保育者の見とる力を高めていきたい。 ○「授業に遊び性を入れていく」ととても必要だと思いました。小学校では、学ばさなければならぬという考え方がまだまだ抜けていません。子どもが自発的に動き考えている姿が、まさに学びのひとつだと捉えて、見取りをしていくことが大切だと思いました。 ○「遊びを通した学びをつなぐ」ということで、普段現場では関わる事のない、幼保小の先生方と実際に現場での様子を話し合える機会がありとても良かったです。子どもは生まれた時から遊びを通して学び続け、切れ目のない保育や教育が必要不可欠だと感じました。		
講師	福井大学大学院 教授 岸野 麻衣 氏 				
講座 3・6		開催日	7月29日(水)	会場	なごやかセンター
『続・子どもの瞳がきらりと光る 保育・指導・支援のアイデア』		感想	○就学前、小学校、中学校と連続した取り組みやその時に大切にしていることを知ること、学びのつながりを意識していく必要性を感じました。ことばとまなびの教室でされていることは、どの学級でも活かせるものだと思います。 ○幼児ことばの教室から小学校・中学校まで系統立てて支援・指導している様子がよくわかり、大変勉強になりました。そこまで長期的な見通しを持って考えることで、一人ひとりの子どもの教育のゴールまで見据えることができ、とても有意義な支援方法だと感じました。 ○市内の通級の先生方が子どもたち一人一人と真摯に向き合っておられるからこそ、あれだけのアイデアがあつまるのだなあと、とても勉強になった。真似できることも多かったので、目の前の子どもたちの姿から、何をすると良いのか考え、9月からの指導に生かしていきたいし、もっと勉強しようと思った。		
講師	幼児ことばの教室・市内各 小中学校通級指導担当 				

◆ 特別支援教育講座 ◆

講座 4		開催日	7月28日(火)	会場	なごやかセンター
『アセスメントをもとにした子ども への関わりと支援のあり方』 ～個別指導計画を中心とした 支援と個別最適な学び～		感想	○聞く、見る、理解するなど、研修の中で実際に体験したことで、実感をもって理解することができました。大人でも難しいことを、私たちは子どもに強いている…まずはそこから意識することで、子どもを見る目もかける言葉も変わってくると思いました。 ○子どもの困り感を疑似体験することで、普段の自分の指導を振り返ることができました。その子に合った寄り添いができていたのか、疑問が残るところもあり、この夏休みの間に具体的な支援の対応を複数パターン持っておけるように、課題と向き合う時間を作ろうと思います。 ○個別の指導計画を作成するときには、数字や条件など、具体的に目標や手だてを書くことが大切だということがわかった。学校に帰ってから、自分が作成した指導計画を見直したいと思う。		
講師	栗東市発達支援 アドバイザー 福井 芳彦 氏 				

講座 5		開催日	8月6日(木)	会場	栗東歴史民俗博物館
『事例で学ぶ検査所見の活用』 ～具体的な指導支援を考える～		感想	○アセスメントについて改めて学び、子どもの観察と発達検査の所見から今優先する支援のあり方を考えていくことが大切だと思いました。また、担任一人だけではなく職員間で、そして就学前なので保護者の方とも子どもを真ん中に話し合い支援できるように意識してすすめていきたいと思います。 ○アセスメントについて、検査がすべてではないこと、日頃の観察や面接があつての客観的な指標であることを再確認できた。また、実際に架空の検査結果を見ながら指導計画を考える中で、所見にはたくさんの情報が詰まっていて、所見をいただけることは大変ありがたいことだと改めて感じた。 ○今回の講座で一番学びがあつたのは、検査結果の例を基にその場で自分で考えて計画を立てるところでした。検査結果について、数値を一番に気にしていましたが、所見の部分が大切だとわかりました。例の内容だけでもその子の背景が見えてきたので、実際に関わっている子どもだったら、もっと様々なことが見えてくると実感しました。		
講師	花園大学 専任講師 川島 民子 氏 				

◆生徒指導・教育相談講座◆

講座 8		開催日	7月29日(水)	会場	なごやかセンター
ゲートキーパー研修Ⅱ 『子どもの命を守る組織対応』 ～アセスメントを含む「点」から「面」へのネットワーク、関係機関との連携～		感想	○今日のお話を聞いて、傾聴の姿勢を忘れないことやチームとして対応していくことの大切さを感じることができました。自傷行為をなくすことが目的ではなく、本人のストレスの軽減や相談できる人がいる、ということを経験することが重要であるということに気付くことができました。 ○ソーシャルワーク的視点から、グループで K-BPS シートを使って話し合うことで、児童生徒について理解が深められることを実感しました。一つの行動や言葉からいろいろな背景を知ることができると改めて感じました。自分は保護因子を高めていける立場にあるので、どのように高められるかを考えながら、支援をしていきたいと思いました。 ○これまでも自傷行為をする生徒や希死念慮のある生徒へ対応した経験はあったが、自分の中で明確な道筋が持てなかったり、不安のある中で対応していたりが多かったように感じます。今回研修を受けることでアセスメントをする際の事項について確認できたり、組織対応する上でのポイントを知ることができました。		
講師	滋賀県SSW 小西 亮 氏 				
講座 9		開催日	7月30日(木)	会場	なごやかセンター
『今なぜ、子ども・若者の「性と生」の学びが必要なのか』 ～包括的性教育の実践から学ぶ～		感想	○「同意と境界線」を日々の子どもたちとの関わりの中から教えていくことが大切であることがとてもよくわかりました。その分、教師の日々の関わり方、教師自身の意識がとても大切であるということも学びました。 ○講演でも述べられていたように、子どもたちが「性教育＝下ネタで面白いもの」という誤った認識をもつのではなく、命の大切さや自分自身・他者を尊重する心を育むための学びとして性教育を捉えられるような授業を実践していく必要があると感じた。 ○日本の性教育の歴史や国際基準について学び、性教育は知識を伝えるだけでなく、一人ひとりの人権や多様性を尊重するために大切な教育であると感じました。今後は学校現場でも、子どもの発達段階に応じた適切な性教育を実践していきたいです。		
講師	思春期保健相談士 脇野 千恵 氏 				

◆保育・授業づくり講座◆

講座 11		開催日	8月6日(木)	会場	栗東歴史民俗博物館
講師	『先生の「指導の引き出し」を増やす、子どもが夢中になる英語授業の創り方』 ～担任一人でも迷わない指導の方法～	感想	○毎時間の導入で行っている天気や曜日の問いかけなどの活動は、一貫した流れで繰り返すことで、児童に安心感を与え、分かる・できるという自信へつながる重要な活動であると再認識できた。 ○視覚情報の絵や写真の提示は、英語を理解する上で、ものすごく助けになることを知った。また、日本語を話すことは英語の学習の妨げになることを知り、どうしても手っ取り早くわからせたい、わからないまま次に進むのはよくないと、日本語で説明してしまうので、気をつけたいと思った。 ○今は立場上、外国語の授業をしていませんが、授業者に教えたくなる、すぐに使いたい取組や活動を体験することができました。なによりも、外国語の授業の組み立て方や考え方についてご教示いただけたことがありがたかったです。		
	(株)インタラック講師 ロビン・サラス 氏 				
講座 12		開催日	8月4日(火)	会場	治田西小学校
講師	『今日から使える! 学校現場のための生成AI活用術』	感想	○生成 AI について授業にどのように活用するかを具体的に考えることができた。とくに、学習のアイデア出しだけでなく、支援が必要な児童（口頭では分かりにくいことへの視覚的支援）など、アイデアをたくさんもらうことができた。夏休み明けからの業務改善や授業づくりのサポートとして活用していきたい。 ○生成 AI を上手く活用することで事務的な作業が減り、他の部分（手作業や心理的なことが関係する作業）に力を注げると改めて感じた。AI に頼ることで自分の思考力が低下していくのではないかと不安があったが、自分がやりたいことを明確にもっておき、AI にサポートしてもらうくらいの気持ちで活用していきたい。 ○生成 AI をどの場面で活用するかを見極めながら、効果的に活用できる場面では積極的に活用し、適さない場面や慎重にすべき場面では、人が作業を担うなど、活用の仕方を見出す必要があると感じます。自分と仕事に合った生成 AI の活用を見つけていくことを心がけ、生成 AI の正しい日常的な活用をしていきたいと感じました。		
	一般社団法人 インパクトラボ代表理事 上田 隼也 氏 				

◆一般教育研修講座◆

講座 13		開催日	8月7日(金)	会場	なごやかセンター
講師	『子どもたちの自尊感情を高める ライフスキル教育演習』	感想	○子どもたちが自分らしくよりよく生き、周囲の人と良好な関係を築くために必要な力として、自尊感情や自己理解、コミュニケーション力、協力する力、感情をコントロールする力、問題解決力、意思決定力などを、体験的な活動を通して育むことが大切だということを改めて実感しました。 ○ライフスキルに関する一日研修を受講し、子どもたちのやる気 → 成功 → 自信 → 成功…という良い循環を生み出すためには、まず子どもたちに成功体験を積み重ねることが不可欠であると実際の体験を通して理解することができた。 ○ワークショップを通して、安心できる集団を作り、成功体験を積むために必要なスキルについて学ぶことができた。スキルを学ぶだけでなく、実際に体験することを通して、この時に子どもはどのように考えるかな、どう動くかな、と考えることができ、9月からの授業や学級経営に活かすことができると思った。		
	ライオンズクエスト 認定講師 寺本 之人 氏 				

講座 14		開催日	7月28日(火)	会場	栗東市役所第1会議室
『2026人権啓発教材「輝く未来」(教材編)を活用した研修会の実施に向けて』		感想	○自分の子どもに対しての人権を大切にできているか、仕事ではできても家庭では疎かになっていないか、考え直すきっかけとなりました。職場での子どもの人権を考えるように、家庭でもしっかり自分の子どもの人権を考えていきたいと思う。		
栗東市人権教育指導員 雪竹 義和 氏			○グループで話し合う中で、コロナ禍前と後で、保護者の養育姿勢や地域社会で子ども全員を育てるという姿勢も、大きく変わったという意見が出ました。		
			○子どもをめぐる状況を資料を基に説明していただけたので、人権研修をする意義を感じながらグループ交流等させていただきました。それぞれの所属が異なる方々との交流だったので、勤務場所とはまた違う視点からの考えも聞けて勉強になりました。		
講座 15		開催日	7月30日(木)	会場	ひだまりの家コミュニティーホール
『人権問題に向き合う一歩を踏み出そう』		感想	○人と関わるときに、相手と話して感じたことを大切にし、お互いのことを分かり合えるような関係作りをしていきたいと思いました。自分の中にある差別心に気づき、そこに向き合いながら、自分の人権感覚をアップデートしていけるようにこれからも学んでいきたいと思います。		
栗東市人権教育指導員 金城 ゆみ子 氏			○「お互いが人の話を聞いて理解しようとしたら物事は解決する」という言葉が印象に残りました。年齢を重ねるにつれて自分の頭がさらに固くなり、人の違う意見が入りにくくなっているなど思います。けれど、わかりあうことを諦めず対話を重ねていかないといけないなどと思いました。		
			○金城さんがおっしゃっていた、自分で確かめる、というとても基本的なことにも関わらず、忘れてしまいがちなことを再認識することができました。自分の無知や思い込みが差別や偏見を生むことを認識し、無意識のうちに他者を傷つけることのないように考え続けたいと感じました。		
講座 16		開催日	8月5日(水)	会場	ひだまりの家コミュニティーホール
『スマホや SNS のトラブルから身を守るために』 ～子どもたちのネット利用の現状～		感想	○SNS等の危険性について改めて知り、普段の自分のSNS等の使い方について考え直すことができた。SNS等にも便利で良い一面もあるので、使い方に気をつけながら今後も活用していきたいと感じた。また、子ども達のスマホやゲームの使い方やスマホやゲームからの影響を知り、普段関わっている子ども達にも当てはまる部分があったので、保護者や子ども達と話しながらスマホやゲーム機との付き合い方を一緒に考えていきたい。		
NIT情報技術推進ネットワーク(株) 代表取締役 篠原 嘉一 氏			○本日の篠原さんのお話は、いろいろな事例を出していただきながら、SNS のトラブルから身を守るために大切なことを教えていただきました。教員が知らないところで、子どもたちはSNSをよく知っていて、人権問題に直面しているからこそ、しっかりと情報モラルを身につけていかなければいけないと思いました。		
			○SNSの危険性を知ることは自身と周りの人の人権を守るということにつながる。良かれと思って、また何気なくしたことが、知らなかったでは済まされないことになることがある。SNSは適度な距離で正しく使いたいと思う。また、アナログ体験の重要性が話されていた。益々、AI が普及する社会において、生身の人と人が実体験を通して、学び感じることを大切にしていきたい。		

講座 17		開催日	8月18日(火)	会場	ひだまりの家コミュニティホール
『デートDVとは?』 ～知っておきたい人権尊重の 関係を築くスキル～		感想	○当事者としての思いが強く伝わってきた。相手を尊重することの対応も自分が思っていたものと違ったため深い学びにつながった。 ○自分を大切にすること。人のしんどさにはいろいろあるが、聞いてあげること。そして見守ること。下手な励ましはかえって傷つくかもしれないと学んだ。 ○知らないことが差別を助長するのと同じように、知らないことで被害者や加害者になってしまうことがある。教育の大切さを改めて感じました。 ○引き込まれるお話であっという間でした。性犯罪が私が思うよりもたくさんあり、表面化しただけなんだなと感じました。一番デリケートな問題だからこそ、性犯罪が身近にあるかもしれない事実と向き合い、しんどい思いをしている子たち（大人）がいなか気がつける敏感さを持ちたいと思いました。		
講師	おやこひろば桜梅桃李代表 柳谷 和美 氏 				
講座 18		開催日	8月21日(金)	会場	ひだまりの家コミュニティホール
『夜間学級の取り組み』		感想	○夜間学級で学び直しをする方たちが、楽しく積極的に取り組んでいる様子が分かりました。自ら学びたいと思うと、難しい漢字も美しく見えてしまうなんて、純粋に学ぶことを楽しんでいるのだと、学ぶとはこういうことなのだと思います。学生時代などにうまく学ばなかった子どもが、抵抗なくこの場で学べたら、とてもよいと思いました。 ○夜間学校というものがあることは知っていたが、滋賀県に初めてできたことは初めて知った。世代や国籍を超えて、一人一人が「学びたい」という強い気持ちをもって通われているのがわかった。生徒さんの「学ぶことで見える景色が変わった」「お金や家、財産は取られてなくなることがあるが、身につけた知識は誰にも取られない。だから勉強は必要」という言葉が印象に残った。 ○不登校や外国にルーツを持つ生徒の今後の進路選択の際に役立てたいと思いました。		
講師	湖南省立甲西中学校 夜間学級 青木 義道 氏 				

夏季休業が終わり、学校・園生活が始まりました。

夏季休業中の研修等で学んだことを保育・教育に活かし、子どもたちの成長につなげられますよう、先生方の実践に期待しています！